
連載：バイオスティミュラントってなんだ？

No.4：日本バイオスティミュラント協議会(JBSA)自主基準の紹介

前回はバイオスティミュラントの日本の状況に述べました。昨年 5 月には農林水産省から「バイオスティミュラントの表記等に係るガイドライン」が公表されました。それを踏まえて、日本バイオスティミュラント協議会 (JBSA) は、昨年 9 月 8 日に自主基準を協議会 HP 上で公開しました (<https://www.japanbsa.com/standards/>)。今回は JBSA の自主基準について紹介したいと思います。

「農水省のガイドラインと JBSA の自主基準はどう違うのか」とよく聞かれますが、農水省のガイドラインでは、BS の定義や BS の効果や使用に係る表示に関する事項を中心に、事業者が BS を取り扱うに当たって特に留意すべき事項などが記載されています。JBSA 自主基準はそれを踏まえて、事業者 (製造者/輸入者) が行うべき、より具体的な取組項目を作成し、自主管理を促すものとなっています。特に「BS 製品の分類」や「BS の主たる効果・効能リスト」を自主的に作成し、これらが表示された製品が BS 資材であることを分かりやすくしています (図 1、表 1、別表 1)。

農水省のガイドラインにおいては、効果の表示をするにあたり、不当表示にならないように留意することや、使用に係る表示として、効果が期待される標準的な使用方法 (対象作物、使用量又は使用濃度、使用時期、使用回数など) や使用上注意すべき事項 (効果が出ない条件など) を使用者に示すことが記載されています。更に、根拠情報として、試験結果や査読付きの学術文献等からの情報を確認することや、安全性情報として農作物やヒトへの安全性についての確認を行うことが述べられています。

JBSA の自主基準は、それらの項目を具体的な取組事項として記載しておりますが、特徴として 3 つの指標を作成し、「効果・効能の表示に係る指標」、「効果・効能の検証に係る指標」、「安全性情報の提供に係る指標」を作成し、手引きのような形で事業者が行うべき項目が箇条書きになっています。

JBSA 自主基準は、製品を認証するものではなく、使用者に製品情報を伝えるために事業者が自主的に取り組むものとしています。自主基準に書いていることを行ったから BS 製品としてみなされる、というのではなく、BS 製品として信頼されるために安全性や根拠情報のデータを取得するための必要性を記載したものになります。

「BS の主たる効果・効能」として 25 個の表記をリスト化していますが (別表 1)、これらは事業者が責任をもってその効果・効能の根拠を説明できる場合に、製品のラベルやパンフレット等に記載することを促しています。その根拠を説明する手引きとして、「効果・効能の検証に係る指標」を作成し、客観的な評価が可能な調査試験の考え方を記載しています。

さらに「安全性情報の提供に係る指標」では、BS 製品の安全性を事業者自身が示すこと

の必要性を示し、その方法として製品安全データシート (SDS) の発行を促しています。SDS の作成の仕方として、製品情報評価機構 (NITE) のウェブサイトで公開されている「GHS 混合物分類判定ラベル/SDS 作成支援システム(NITE-Gmiccs)」の紹介もしています。

これらの取組を行うことで、農水省ガイドラインに書かれた効果の表示、使用に係る表示、根拠情報の確認を行い、安全性情報を使用者に伝えることができます。その他にも、品質確認、問い合わせ対応などは農水省ガイドラインの内容を踏まえて、JBSA 自主基準にも記載を行っています。

JBSA の自主基準は、使用者が安心して使用でき、使用者の利益につながるように、事業者が責任をもって必要な情報を取得し伝えることを目的としています。浸透するまでには今しばらく時間がかかるかもしれませんが、バイオスティミュラントの健全な普及のために、JBSA は活動を続けていきたいと思えます。

図 1. ラベル、パンフレットへの記載例

日本バイオスティミュラント協議会自主基準に基づく表記	
BS製品の分類 ^{※a}	腐植物質
BSの主たる効果・効能 ^{※b}	養分吸収の改善 秀品率の改善

※a: 表1. BS製品の分類を参照

※b: 別表1. BSの主たる効果・効能リストを参照

表 1. BS 製品の分類例

海藻、海藻抽出物
アミノ酸、ペプチド、タンパク質加水分解物
腐植酸、腐植物質、フミン酸、フルボ酸
微生物
微量ミネラル、ビタミン
キチン、キトサン、多糖類
動植物抽出物、微生物抽出物
その他(素性・由来が分かるように明記)

◆2種類以上を記載しても良い

別表 1. BS の主たる効果・効能

効果・効能	表記リスト	効果・効能	表記リスト
栄養利用の 効率改善	1 養分吸収の改善	収量・品質の 改善	15 収量改善
	2 水分吸収の改善		16 秀品率の改善
	3 酸素の供給効率の改善		17 有用成分(栄養成分・機能性成分)の改善
	4 CO ₂ の供給効率の改善		18 糖度増加
	5 養分の利用効率の改善		19 光合成改善
非生物的ストレス 耐性の改善	6 耐暑性改善	上記(1~18) の項目と因果 関係が説明で きる場合に表 記できる効能	20 細胞壁の強化
	7 耐寒性改善		21 樹勢改善
	8 耐乾燥性改善		22 成り疲れ改善
	9 湿害からの回復改善		23 外部損傷の修復
	10 低照度下での生育改善		24 しおれ軽減
	11 塩害耐性改善		25 根圏の有用微生物の活性化
	12 遮光効果		
	13 耐霜性改善		
	14 環境ストレス耐性を高める (2つ以上のストレス耐性を有する場合)		

文責：企画・広報委員長 鈴木基史